

しかはま自然観察会

のらえもん

『人も 自然も みんなともだち !』 No.1

代表責任者 古高 利男

☎270-1132

我孫子市 湖北台2-14-7

☎09072759890

2012, 4, 26 (木)

第1回活動 「さくらのひみつ」

・・・どんなさくらがさいているかな？・・・

* 日 時：2012年3月31日（土）午前10：00～12：00

* 場 所：都市農業公園

* 参加者： 家族6 内訳 大人 8人
小学生 7人
幼 児 6人
合 計 21人



梅の花の開花は遅れました。だから、桜も遅れるかな？
と思いました。が、3月31日に計画したのは、春休み中だ
からでした。4月7日では、新しい学年に進級したのらえもん
の皆さんは家族といろいろな準備があって、参加しにくいかな
と思いました。

この日は曇り空で、その上桜の木はつぼみのままでした。
わずかにエドヒガンだけがきれいに咲いていました。このエドヒガン（江戸彼岸）は、都
市農業公園入り口のバス停の道路側に植えられています。ですから、見落としてしまいが
ちなのです。去年は満開でした。

エドヒガン（江戸彼岸）はソメイヨシノの一方の親として有名です。自生地は限られて
いるようです。人の手で公園や住宅地に植えられたものを、ときどき見かけます。よく見
ると、ソメイヨシノよりも花は小さく白っぽいピンクで、満開のときはそれはそれはきれ
いです。花の後に、葉が出てきます。木肌は白っぽく、ソメイヨシノのようなダイス色で
はありません。

のらえもんが住んでいる近くの住宅地に、半分は道路側にはみ出して咲くエドヒガンが
あり、自転車を止めてじっくり鑑賞させてもらっています。が、公園のような広いところ
で咲いているほうが美しく見えるようです。

子どもたちにとって、今日のお目当ては「さくら」ではありません。今日は、去年に引
き続き、カブトムシの幼虫を配布する日なのです。虫かごを持って、集まってくれました。
東屋のテーブルの上に、30匹ほどの白いイモムシを広げると「オー！」と声が上が
りました。まるまると太った幼虫です。我孫子産です。すぐに配ってしまうのはもったいな
いので、ここそらのらえもんの出番です。カブトムシの体のつくりや育ち方の様子を紙芝
居ふうにした掲示物を見せながら、「大きくなったら、昆虫博士になってね」という思い
を込めながら話していきました。みんないい顔で、付き合ってくれました。そして、いよ
いよ配布です。一人3匹になりました。

育てている子どもたちの顔を思い浮かべると、おもわず微笑んでしまいます。

都市農業公園には「五色ザクラ」で有名な桜がたくさん植えられています。かつて、足
立区は桜の名所で、荒川堤はたくさんの善男善女でにぎわったそうです。そのときの桜を
総称して「五色ザクラ」とよんだようです。

その桜がワシントンへ贈られ、友好に一役かっていたのです。4月18日の朝日新聞の
夕刊には、ワシントンを訪問した鹿浜地区在住の浅香孝子様の記事が大きく載ってしま
したので、皆さんに紹介します。とても参考になる記事ですし、あらためて「五色ザクラ」
を調べてみるきっかけになればと思います。

ワシントン桜 100年万感

米国ワシントンのポトマック河畔に、日本の桜が渡って100年。この春、全米桜祭りが開かれ、友好の節目を特別な思いで迎える人たちがいる。

苗木産地出身者・寄贈者の孫



東京から贈った桜に「よく育ったねえ」と声をかける浅香孝子さん。米ワシントン

「立派に育った」「友好の宝うれしい」

「こんなに遠くで立派に育っているなんて」。初めてワシントンを訪れた東京都足立区の主婦、浅香孝子さん(64)は13日、ポトマック河畔の桜の幹に触れ、涙声になった。生まれ育った足立区の江北・鹿浜地区は、ワシントンの桜の「故郷」。1912年に横浜港から出発した11品種の苗木は、3千本が咲き誇っていた荒川堤の桜から接ぎ木された。

ただ浅香さんは、その景色を見たことがない。太平洋戦争で、まきの材料などとして伐採されて消滅したからだ。両親から様子を聞かされてきた荒川の桜は、どんなものだったのか。地元の郷土史研究仲間と一緒に全米桜祭りを訪れた。

「『故郷はいまどうなっている?』って話しかけられているような気がします」。浅香さんはごつごつした樹皮にそっと耳を当て、目を閉じた。ワシントンに桜を贈ったの

は、当時の東京市長・尾崎行雄。その孫で東京在住の通訳、原不二子さん(72)も3月下旬、桜祭りに招かれ訪米した。「すっかりアメリカに根付き、市民の宝になった。大変うれしい」と100周年を喜ぶ。

「尾崎は、桜できちんと礼を言い、アメリカとの信頼関係を築きたかった」という。1905年、日本とロシアの間でポーツマス条約が結ばれた際、あっせんに動いたのが米国のセオドア・ルーズベルト大統領だった。尾崎が謝意を示す機会をうかがっていたところ、桜の話が舞い込んだ。

尾崎が贈った桜のお礼として米国は1915年、日本にハナミズキを贈った。「贈られたもの大切さを日本の子どもにも知ってほしい」と原さん。ハナミズキは都内などに植えられており、2015年にハナミズキの来日100周年の記念行事を開きたいと考えている。

(ワシントン＝采沢嘉高)